

有機化学B (Organic Chemistry B)					担当教員
					教授 古田 巧
					教授 南部 寿則
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学専門教育（講義）	1年次 後期	講義	1.5単位	必修	

【概要】

有機化学 A では有機化学の基本事項を学んだ。有機化学 B からは、各官能基の性質、反応、合成について講義する。内容としては、重要な基礎的反応である置換反応、脱離反応、付加反応、化合物としてハロゲン化アルキル、アルコール、エーテル、アルケン、アルキン等の官能基の性質、合成、反応について学習する。

講義は対面で実施します。

【授業の一般目標】

有機化学 B では、本格的に有機反応の反応機構を学ぶことになる。有機化学では官能基の性質や反応性を理解することが重要であるが、反応機構の学習においてもこの理解に基づいて論理的に考えることを心がけてほしい。反応機構の学習は、有機化学 C から D へと続くため、有機化学 B の段階でしっかりと有機反応のしくみを理解するようにしよう。反応機構を丸暗記するのではなく、順序立てて理論的に考え、自ら導けるようになることが本講義の目標である。

[関連する卒業認定・学位授与方針] DP1・DP2

【準備学習(予習・復習)】

これまで学んできた有機化学 A は理解していることを前提に講義する。もし理解度に自信がないようなら、再度復習してしっかりと内容を把握しておくこと。

予習：講義の範囲にあらかじめ目を通してから授業に臨むこと（30～60分程度）

復習：授業の内容を暗記するのではなく、なぜそのような反応が進行するのか理由を理解し、出発物質の性質や反応生成物と関連させて復習すること（60～90分程度）

積み重ねの側面が大きい有機化学の学習では、すべてを丸暗記で対応するには限界がある。基本原理を理解し、論理的に考えながら学習を進めることを心がけてほしい。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	有機反応の理解	南部	有機化学Bの学習内容を把握する。反応が進行するしくみを理解し、説明できる。	C3-(1)- -1,2
2	ハロゲン化アルキルと求核置換反応(1)	南部	有機ハロゲン化合物の命名、性質、反応について説明できる。求核置換(SN2)反応の機構について説明できる。	C3-(1)- -1,2 C3-(3)- -1,2
3	ハロゲン化アルキルと求核置換反応(2)	南部	SN1反応の機構について説明できる。	C3-(1)- -6～9 C3-(3)- -1,2
4	ハロゲン化アルキルと求核置換反応(3)	南部	SN1反応かSN2反応かを決める因子について説明できる。	C3-(1)- -6～9 C3-(3)- -1,2
5	ハロゲン化アルキルと脱離反応(1)	南部	脱離反応の特徴とE2反応の機構について説明できる。	C3-(1)- -6～9 C3-(3)- -1,3
6	ハロゲン化アルキルと脱離反応(2)	南部	E1反応の機構について説明できる。	C3-(1)- -6～9 C3-(3)- -1,3
7	ハロゲン化アルキルと脱離反応(3)	南部	E1反応かE2反応かを決める因子について説明できる。	C3-(3)- -1,3
8	アルコール、エーテルとその関連化合物(1)	南部	アルコール、エーテルの性質、反応について説明できる。	C3-(1)- -1,2 C3-(3)- -1,2
9	アルコール、エーテルとその関連化合物(2)	南部	チオールとスルフィド、エポキシドの性質、反応について説明できる。	C3-(3)- -2 C3-(2)- -3
10	アルケン(1)	古田	アルケンの命名、性質について説明できる。	C3-(1)- -1,2 C3-(1)- -6
11	アルケン(2)	古田	アルケンへのシン付加、アンチ付加の反応機構(立体特異性、立	C3-(1)- -6

			体選択性、位置選択性)について説明できる。	C3-(2)- -1
12	アルケン(3)	古田	アルケンへのシン付加、アンチ付加の反応機構(立体特異性、立体選択性、位置選択性)について説明できる。	C3-(1)- -6 C3-(2)- -1
13	アルケン(4)	古田	アルケンへのシン付加、アンチ付加の反応機構(立体特異性、立体選択性、位置選択性)について説明できる。	C3-(1)- -6 C3-(2)- -1
14	アルキン	古田	アルキンの性質、反応について説明できる。	C3-(2)- -2,3
15	総括・まとめ			

	(書名)	(著者・編者)	(発行所)
教科書	スミス有機化学 第5版(上)	J. G. Smith	化学同人
参考書	スミス有機化学 第5版 問題の解き方	J. G. Smith, E. S. Smith	化学同人

【成績評価方法・基準】

定期試験(100%)

【評価のフィードバック】

Manabaに掲示する